

立命館アジア太平洋大学への APS 3 回生編転入について

3 回生編入学・転入学 出願資格の事前審査

編入学・転入学を希望する場合、出願前に出願資格の事前審査が必要です。事前審査において出願資格があると認められた場合のみ、出願が可能になります。事前審査の時点では検定料の支払いは不要です。事前審査に合格し、出願する際に入学検定料を支払ってください。

事前審査を受けずに出願した場合、または事前審査で出願資格が認められなかったにも関わらず出願した場合は、面接および合否の判定は行いません。入学検定料等も返金できません。

-
- I. 【事前審査の内容】 P2
 - II. 【単位認定について】 P3
 - III. 【事前審査の手順】 P7
-

I. 【事前審査の内容】

事前審査では以下の点について審査します。

1. 出願資格（編入学・転入学希望者全員が対象）

事前審査において出願資格が認められた場合のみ、出願が可能です。

2. 入学した場合の専門教育科目の単位認定見込み（3回生編入学・転入学希望者のみ対象）

3回生編入学・転入学の場合、APUでの標準的な在学期間は2年間です。以下の点を予め理解した上で、入学後の学修や就職活動についてよく検討してから出願してください。

- ① 専門教育科目として最低 10 単位の単位認定がないと、2年間での卒業は難しくなります。事前審査での単位認定見込み結果が 10 単位に満たない場合でも出願は可能ですが、卒業までに 2 年以上の時間がかかる可能性があること、学修以外の就職活動やサークル活動などに使える時間が限られることを理解した上で出願してください。
- ② 3回生編入学・転入学の場合、必修言語科目（英語基準学生の場合は日本語、日本語基準学生の場合は英語）の履修は必要ありませんが、希望に応じて履修することも可能です。ただし、言語科目の履修には講義科目の倍の学修時間が必要なため、2年間で専門の学修と両立することは非常に難しくなっています。従って必修言語科目の履修を希望する場合は、2回生編入学・転入学を薦めます。特に日本での就職を希望し、日本語科目の履修を希望する場合は、2回生編入学・転入学が適しています。
- ③ 2年間での卒業を希望する場合、日本での就職活動やアルバイト・サークル活動など、学修以外の活動時間が制限される可能性があります。特に日本で就職活動を行う場合には、3回生の第2セメスターから4回生（6～8セメスター）の期間中は就職活動に一定の時間を割く必要があるため、2回生編入学・転入学を薦めます。

- ① ～③についての詳細は以下の「II. 単位認定について」を確認してください。

II. 【単位認定について】

3 回生編転入 アジア太平洋学部 (APS)

(1) 卒業要件について

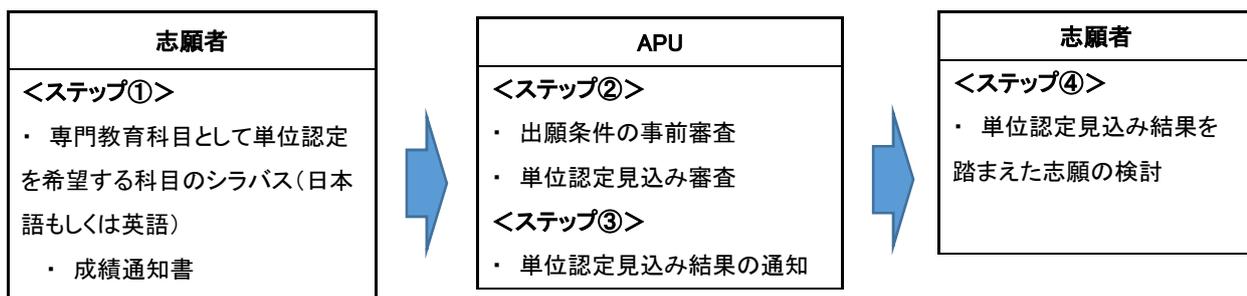
APS に 3 回生編転入で入学した場合、以下の卒業要件を満たす必要があります。

- ・ 編転入時に認定された科目を含め、卒業までに合計 124 単位以上を修得していること
- ・ 自身が登録した学修分野の必修科目を 2 単位以上修得していること
- ・ 自身が登録した学修分野の専門教育科目を 28 単位以上修得していること

(2) APS への 3 回生編転入への志願にあたって

APS への 3 回生編転入を志願するにあたって、各志願者が前籍機関において学んだ内容がどの程度 **APS の専門教育科目として認定される見込みがあるか**を踏まえた上で志願を行うことが極めて重要です。単位認定は志願者ごとの前籍機関における学修内容に基づいて行われるため、志願者ごとに卒業に必要な必修科目や修得しなければならない専門教育科目の単位数等が異なります。また、APU での科目履修にあたっては、セメスターごとに履修登録が可能な単位数の上限が定められているため、2 年間で卒業に必要な学修をどのように進めるかを慎重に検討・計画することも必要です。

出願までの大まかな流れは以下の通りです。



ステップ①：事前審査に必要な書類の提出（志願者）

- ・ 前籍大学での学修内容に応じて専門教育科目分野としての認定が可能な場合があります。専門教育科目分野として認定を希望する科目については「専門科目単位認定申請書」を記入の上、該当する科目のシラバスなど前籍機関における学修内容の分かるもの（日本語もしくは英語）を提出してください。
- ・ **APU で開講している科目の一覧は以下を参照してください。** これらの科目のシラバスそちらで確認できます。

APS カリキュラムアウトライン：

https://admissions.apu.ac.jp/resource/load/documents/APS_Curriculum_Outline_EN.pdf

- ・ APU で開講されている科目以外でも専門教育科目分野として認定されることがありますので、APU で開講されている科目と内容が一致しない場合でも専門教育科目として認定される可能性がある場合については「専門科目単位認定申請書」を記入の上、該当する科目のシラバス（日本語もしくは英語）を提出してください。

APU 科目のシラバス：<https://portal2.apu.ac.jp/campus/slbbsskgr.do>

ステップ②：単位認定見込み審査（APU）

- ・ 3 回生編転入の単位認定は 62 単位を上限として専門教育科目分野もしくは共通教育科目分野としての単位認定見込み審査を行います。専門教育科目分野については提出されたシラバス等に基づき、専門教育科目としての認定単位の見込み審査を行います。本学の専門教育科目分野に相当しない場合、については共通教育科目として認定されます。
- ・ 必修言語科目については一括で認定を行います（英語基準の場合：16 単位、日本語基準の場合：24 単位）

<英語基準の単位認定>

科目分野		認定単位数	計
共通教育科目	必修言語科目(日本語)	16	62
	言語教育科目および共通教養科目	46*	
専門教育科目	専門教育科目		

<日本語基準の単位認定>

科目分野		認定単位数	計
共通教育科目	必修言語科目(英語)	24	62
	言語教育科目および共通教養科目	38*	
専門教育科目	専門教育科目		

* 志願者の学修内容に応じて単位認定

ステップ③：単位認定見込み結果の通知（APU）

- ・ APU より単位認定見込み結果を通知します。

ステップ④：単位認定見込み結果を踏まえた志願の検討（志願者）

- ・ 単位認定見込み結果を踏まえ、APU への志願を検討してください。また、APU での大学生活を計画するにあたり、以下の点について留意してください。

<科目の種類と開講形態について>

APU の授業にはクォーター科目とセメスター科目があり、その多くは 2 単位科目です。クォーター科目は 2 ヶ月で完結し、セメスター科目は 4 ヶ月で完結します。クォーター開講の講義科目・演習科目は週に 2 回授業が行われ、セメスター開講の講義科目・演習科目は週に 1 回授業が行われます。言語科目については講義科目・演習科目の授業回数の 2 倍となります。

<履修登録の上限数について>

APU での科目履修にあたっては、セメスターごとに履修登録が可能な単位数の上限が定められているため、2 年間で卒業に必要な学修をどのように進めるかを慎重に検討・計画する必要があります。セメスターごとに定められた履修登録が可能な単位数は以下の通りです。

5 セメスター	6 セメスター	7 セメスター	8 セメスター
20 単位	20 単位	24 単位	24 単位

<授業以外の活動に要する時間について>

APU での学修を計画する際には日本での就職活動やアルバイト・サークル活動など、学修以外で行う可能性のある活動に要する時間等も考慮しておく必要があります。特に日本で就職活動を行う場合には、第 6～8 セメスター期間中は就職活動に一定の時間を割く必要があります。

<言語教育科目について>

3 回生編転入生は必修言語科目（英語基準学生の場合は日本語、日本語基準学生の場合は英語）が認定されているため、入学後に必修言語科目を履修する必要はありませんが、日本での就職を希望する場合などは必修言語科目を履修することが可能です。しかしながら、言語教育科目は通常の講義科目と比較して 1 単位に必要な学修時間が 2 倍となっています。専門教育科目の単位認定状況にもよりますが、専門教育科目の認定単位数が少ない状況で必修の言語教育科目の履修を希望する場合は、2 年間での卒業が厳しくなる場合もあります。専門教育科目の単位認定結果に関わらず、必修言語科目の履修を希望する場合は 3 回生編転入でなく、2 回生編転入として志願することも検討する必要があります。

<学修分野ごとに必要となる単位数>

APS では編転入時に専門教育科目として認定された単位数以外に、APS3 回生編転入生は自身で選択する学修分野共通教養科目 2 単位、専門教育科目 28 単位を入学後に修得する必要があります。

以下に単位認定のパターンを幾つか例示しますので、これらのパターンを参考にした上で、自身の単位認定見込み結果を踏まえ、出願を検討してください。

<入学後に必要となる各分野の修得単位数> ※ 専門教育科目分野の単位認定数に応じた入学後の履修計画の一例
パターン①

◆英語基準（必修日本語 16 単位）、専門教育科目で 20 単位、共通教育科目で 26 単位の単位認定で入学した場合

	5 セメスター	6 セメスター	7 セメスター	8 セメスター	合計
登録した学修分野の共通教養科目	2	-	-	-	30
登録した学修分野の専門教育科目	8	8	6	6	
学修分野以外の専門教育科目(目安)	4	4	4	2	14
各セメスター合計	14	12	10	8	44

上限登録単位数	20	20	24	24
登録可能な残り単位数	6	8	14	16

パターン②

◆英語基準（必修日本語 16 単位）、専門教育科目で 10 単位、共通教育科目で 36 単位の単位認定で入学した場合

	5 セメスター	6 セメスター	7 セメスター	8 セメスター	合計
登録した学修分野の共通教養科目	2	-	-	-	30
登録した学修分野の専門教育科目	8	8	6	6	
学修分野以外の専門教育科目(目安)	8	6	6	4	24
各セメスター合計	18	14	12	10	54

上限登録単位数	20	20	24	24
登録可能な残り単位数	2	6	12	14

パターン③

◆英語基準(必修日本語 16 単位)、専門教育科目で 2 単位、共通教育科目で 44 単位の単位認定で入学した場合

	5 セメスター	6 セメスター	7 セメスター	8 セメスター	合計
登録した学修分野の共通 教養科目	2	-	-	-	30
登録した学修分野の専門 教育科目	8	8	6	6	
学修分野以外の専門教育 科目(目安)	10	10	8	4	32
各セメスター合計	20	18	14	10	62

上限登録単位数	20	20	24	24
登録可能な残り単位数	0	2	10	14

Ⅲ. 【事前審査の手順】

(1) 提出書類

*1、2、9はアドミッションズサイト (<https://admissions.apu.ac.jp>) から入力用願書 (PDF) をダウンロードして使用してください。

*英語または日本語以外で作成された証明書、シラバスについては英語または日本語の翻訳を添付する必要があります。証明書・シラバスの発行機関、翻訳会社または資格を持つ翻訳者による翻訳のみ認めます。翻訳機関の公印または翻訳者の氏名・住所・連絡先・署名（または捺印）が必要です。

1. 学士課程入学願書 P1、2
2. 編入学・転入学希望者学修状況記入書
3. 基準言語（英語または日本語）の公式語学試験を受験している場合は証明書
4. 成績証明書
[2 回生編入学・転入学]
高等学校の成績証明書+高等学校卒業後に所属した高等教育機関の成績証明書
[3 回生編入学・転入学]
高等学校卒業後に所属した高等教育機関の成績証明書（高等教育機関に在学中の場合は 1.5 年以上の成績証明書）
5. （現在高等教育機関に在籍している場合）現所属機関の卒業要件が記載された書類
6. （現在高等教育機関に在籍している場合）履修中の科目を証明する書類
7. （高等教育機関を卒業している場合）卒業証明書および学位を証明する書類
8. （学士課程および準学士（短期大学士）課程以外を修了または修了見込みの出願希望者）現在の課程を修了後、大学の学士課程 2 回生または 3 回生へ編入できる場合は、そのことを証明する書類
9. （3 回生編入学・転入学）専門科目単位認定申請書
10. （3 回生編入学・転入学）履修済み・履修中の科目の中で、APU で専門科目として単位認定を希望する科目のシラバス

*APU の専門科目リストについては以下を参照してください。

APS カリキュラムアウトライン：

https://admissions.apu.ac.jp/resource/load/documents/APS_Curriculum_Outline_EN.pdf

(2) 提出方法

WEB サイト上の編入学・転入学向け事前審査出願期間に**指定されたリンク先 (<http://r.apu.jp/2019tr>)**へ必要書類をアップロードし提出してください。その他の方法では一切受け付けません。アップロードの際に問題が発生した場合は、その内容を記載したメールを transfer@apu.ac.jp まで送ってください。

事前審査の申請を受け付けた場合、APU から受付確認メールを送付します。提出したにも関わらず 1 週間以上受付確認メールが届かない場合は、申請が受け付けられていない可能性があります。その場合は、必ず上記 transfer@apu.ac.jp 宛に問い合わせをしてください。

(3) 事前審査に合格した場合の提出書類について

事前審査に合格し、出願する場合、事前審査でメール提出した願書や証明書については、要項で指定している方法で、原本または原本証明がなされた複写を提出する必要があります。

入学願書、編入学・転入学希望者学修状況記入書については、事前審査の際に記入した入力用願書 (PDF) を更新し、印刷の上郵送にて提出することが出来ます。オンライン出願の場合は、APU Online Application System へ登録の上、改めてデータを作成し、提出してください。

以上